

## 「車いす空の旅 沖縄」にボランティアとして参加

神奈川県遊技場協同組合(理事長 伊坂重徳)と神奈川福祉事業協会(会長 伊坂重徳)は、神奈川新聞厚生文化事業団が年2回行っている「車いす空の旅事業」に、昭和60年から毎年300万円の支援を続けております。また、この空の旅事業には、今回も県遊協職員がボランティアとして参加し、障害者やご家族の思い出づくりのサポートをしました。

1. 日 時	平成25年4月11日(木)～13日(土)
2. 場 所	沖縄(残波岬、美ら海水族館、琉球村ほか)
3. 主 催	神奈川新聞厚生文化事業団 フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会 共催
4. 参 加	肢体障害者15名とその家族及び看護師・ボランティアなど総勢56名

5. 概 要 神奈川新聞厚生文化事業団では、車いす生活をおくる障害者とその家族を招待し、毎年4月に沖縄、9月には北海道へと飛行機を利用して訪れています。

これに招待された方々は、美ら海水族館でのエイやジンベイザメなどが水槽を泳ぎ回る幻想的な光景を満喫し、琉球村では獅子舞や沖縄風パレードに参加するなど、沖縄独特の文化に触れて楽しんでいました。天候はあいにくの小雨に見舞われましたが、道中は26人のボランティアがブルーシートで雨よけをつくり、一人一人に付き添ってサポートし、夕食時のカラオケ大会ではボランティアのダンスに、参加者全員が表情をほころばせていました。

私たち健常者にとっては容易なことかもしれませんが、障害者の方にとっては、困難なことがたくさんあります。これからも共に汗をかき、常に優しい心で、この思い出づくりのサポートを続けてまいります。

この「車いす空の旅」については、4月12日付及び4月14日付神奈川新聞にそれぞれ掲載され、5月4日には神奈川新聞紙上に特設ページが設けられ、掲載されました。

